

徳島県博物館協議会 NO. 28 ニュース

新しくなりました!!

今号 (No. 28) より内容を一新し、加盟館・園相互の情報紙的性格のものにいたしました。

「今、わが館では…」

徳島県立近代美術館

徳島県立近代美術館では、所蔵作品展を「常設」とせず、年4回の大きな展示替を行い、様々な鑑賞の切り口からコレクションを紹介しています。20世紀の人間像・現代版画・徳島ゆかりの美術、これら収集の3本柱がそのベースになっています。そして、広いテーマで特別展を年4-5回程度行っています。いずれの展示においても、各回とも美術への関心を広めて頂ける機会と考え、教育事業も工夫しています。定番の展示解説に加え、制作体験、作家トーク、こども鑑賞クラブなど。

さて、この7-8月は特別展「アメリカ版画の今-5つの工房から」を開催しました。版画は、今日の美術においては重要な表現手段の一つです。単なる複製画の出版として片付けることはできない、興味深い領域となっています。本展はアメリカの「工房」の技術者と作家のコラボレーションに注目するものです。



特別展「アメリカ版画の今-5つの工房から」
2008年7月19日-8月31日



ところで、この企画は関西の版画家たちの組織「KYOTO 版画」と連携して開催されたものです。彼らはこれまで東欧やアジアの国々との交流展を自主的に運営してきました。そして今年の5月には、このアメリカの版画展を京都市美術館別館で開催したところです。京都会場ではアメリカの工房ディレクターと会い、地域連携や学校との提携関係など、興味深い話を聞くことができました。徳島でも詳しく紹介したい旨リクエストしたところ、ビデオや資料がたくさん届き、普及に対する熱意を共有し合えたように思えてうれしいことでした。

他の機関や活動との連携が、美術展をめぐる広がっていきます。名画をただ陳列しているだけでなく、アクティブな顔が美術館にもあることを知っていただきたいと思います。

(主任学芸員 竹内利夫)

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
Tel: 088-668-1088

海陽町立博物館



徳島県最南の町、海陽町の阿波海南文化村にあります。平成10年に開館した町立の博物館で、日本刀常設展示館です。海部刀を中心に常時50振り程の刀を展示しています。

他にも、出土量四国一70,088枚の大里古銭、館内に復元された県指定文化財の史跡第1号、大里古墳の横穴式石室、昔の暮らしを知る民具や民話、文化財の場所を示した立体地形模型、古銭の伝来を解説した歴史シアターなどがあります。



<海部刀等美術刀剣研修講座>

講師は岡田一郎前博物館長で、毎回、海部刀を中心に実物の刀剣を手にとって鑑賞し、美術刀剣の鑑賞の仕方など基本的な事柄について学習します。常時10名程度の受講者があります。講座の開催は不定期です。場所は、阿波海南文化村で行っています。事前にお問い合わせください。受講料は年会費1千円です。



講座の様子

<歴史文化講座>

春から夏に年3回程度、徳島県立博物館と共催で開講しています。申し込み・受講料は必要ありません。場所は、阿波海南文化村の海南文化館で行っています。本年度は、民俗や美術史について、5月～8月まで月1回、合計4回開講します。

<古文書の読み方講座>

冬に年3回、徳島県立文書館等から講師を迎え、郷土の歴史を学びながら古文書の読み方を学習します。受講料500円。場所は、阿波海南文化村の海南文化館で行っています。

○地域や学校との連携

本年度春に開催した開館10周年記念企画展「巨匠 吹田文明版画展 ー徳島県立近代美術館所蔵品よりー」では、徳島県立近代美術館から学芸員を講師に迎え、学校と連携し、海陽町内から小学校・中学校の児童生徒が団体鑑賞しました。



○新しい展示品

阿波海南文化村を会場に、昨年度秋の国民文化祭で行った美術刀剣展「阿波海部刀の世界」の開催記念に、徳島県無形文化財保持者の杉山正俊刀匠が製作した平成の海部刀で、片切り刃の刀1振り展示品に加われました。

〒775-0202 海部郡海陽町四方原字杉谷73
Tel.: 0884-73-4080

資料紹介

徳島県立文書館

写真で見る失われた幻の城下町 徳島

徳島県立文書館では公文書や古文書と共に写真や映像資料も収集しており、その数は1万点を超えています。今回はその中から「おすすめの逸品」を紹介しましょう。

写真1は明治の終わり頃の徳島市の俯瞰図です。市街の中心を流れる新町川沿いには藍倉が立ち並び、城山の周辺には徳島駅や監獄などが見えます。この写真には写っていませんが、眉山山麓の大滝山には城下町徳島のシンボルともいえる三重塔が優美な姿を見せていたはずでした。

明治22(1889)年には人口で全国第10位の大都市であった徳島は、この写真の頃には阿波藍の衰退と共に地域経済の低迷がはじまっていましたが、まだまだ四国第一の都市でした。江戸時代以来の伝統的な街並みと近代的な建造物が融和した、独特の雰囲気のある城下町であったと言われます。



写真1 「東宮行啓記念写真帳」より

このような「城下町徳島」を一夜にして消し去ってしまったのが、昭和20年7月の徳島大空襲です。

写真2は昭和20(1945)年3月24日に米軍が撮影した徳島市の航空写真です。米軍はこの写真や他の資料をもとに詳細な地図を作成し、綿密な作戦を立案した上で徳島大空襲を行っています。大空襲翌日の7月5日に、米軍が作戦の“成果”を確認するために撮影したのが写真3です。白っぽく写っている部分が焼け野原ですが、これを見てもわずかに数時間の空襲で徳島市街の中心部が灰燼に帰してしまったことがわかります。この2枚の写真は、空襲の恐ろしさと平和の尊さを伝える貴重な歴史資料といえるでしょう。



写真2

原本は米国国立公文書館所蔵



写真3

県立文書館所蔵の歴史写真の大半はデータベース化・デジタルデータ化しています。検索や複写などご利用しやすくなっておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒770-8070 徳島市八万町向寺山 Tel:088-668-3700

加盟館の紹介

阿波和紙伝統産業会館

▷作業スペース：

この作業スペースは、主に紙漉き職人が作業をする場所として使用しています。いろいろな紙の寸法に対応するため、大きささまざまな簀(す)と桁(けた)を使って紙漉きを行っています。小さいものなら名刺のサイズから、大きいものは2mを越えるものまであります。また、このスペースは紙漉き職人の養成と研修も兼ねて使用されています。原則として、一般の人の受入れはいたしておりません。ただし、紙漉き職人と一緒に作品を作ることを目的とするビジティングアーティストの場合は例外となっております。

▷体験実習スペース：

この実習スペースは小学生をはじめ一般の人で手漉き和紙を漉くことが出来る体験実習の場です。ハガキもしくは半紙を漉くことができます。また、徳島名産の藍を使い、藍染めの体験もできる設備がございます。

▷展示室・多目的ホール：

ギャラリーとして一般に開放している第1・第2展示室と、和紙に関する図書閲覧ができる多目的ホールがございます。展示室では和紙にちなんだ作品の展示や、カルチャー教室での先生、生徒さんの作品展などが催されています。

▷ミュージアムショップ：

原料や用途による紙質の違い、他素材の漉き込みや染めなど、さまざまな個性と魅力を持った紙、またそれらを使ったステーションナリーやインテリアなどの日常生活品を集めて展示即売をしています。

○講座紹介

和紙会館では、定期的に教室を開催しています。

・和紙ちぎり絵教室

日時：毎月第一、第三金曜日 午後1時～3時

講師：松島敬子先生(しゅんこう特待講師)

会費：月2000円、材料費別

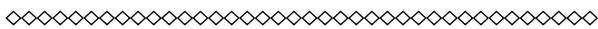
・絵てがみ教室

日時：毎月第四土曜日 午前10時30分～12時

講師：山下美知子先生(やじろべい主宰)

会費：月1500円(友の会会員は1000円)、

材料費別



神山町郷土資料館

約8,000点の旧村役場文書の保管や民具の展示、史跡調査の成果をまとめた書籍の販売をしています。

※来館される場合は事前に連絡をお願いします。

連絡先：神山町教育委員会

088-676-1522

徳島県郷土文化会館

—阿波木偶資料館—

徳島県郷土文化会館—阿波木偶資料館では当館の所蔵する阿波人形浄瑠璃に関する資料のうち、木偶かしらを中心に展示をしています。

場内は、阿波木偶の概要が一目でわかるように、1 木偶の種類、2 時代別木偶、3 役者別木偶、4 人形芝居の名場面、5 人形芝居の衣装と諸道具の5つのコーナーに分けて紹介しております。

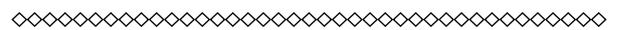
1 木偶の種類のコナーでは、役柄や形状から名付けられた寄年かしら、娘かしら、角目かしら等を使用外題を挙げながら展示しています。

2 時代別木偶のコナーでは、江戸時代の小型でカラクリの少ないもの、明治時代に入り、かしらが大型化され、カラクリが複雑になり、大正、昭和になると新作物のかしらが多くなる。というように制作年代別に展示し、木偶の変遷を紹介しています。

3 作者別木偶のコナーでは、阿波の人形師の祖といわれている馬之瀬駒蔵、本県で有名な人形師天狗久、天狗久の師匠人形富、よきライバルでもあった人形忠等の作品を展示しています。

4 人形芝居の名場面コナーでは、本県で有名な親子の情愛を表現した「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」、本県でよく上演された「絵本太功記」。また、本県で作られた「実録建治山御法之花」等の登場人物を用いて各場面を紹介しております。

5 人形芝居の衣装と書道具のコナーでは、人形浄瑠璃芝居に欠かせない大道具の襖、小道具の兜、大夫の見台、袴等人形の衣装も展示しています。



徳島市立徳島城博物館

当館は、徳島藩と蜂須賀家に関する歴史資料の収集保存、展示公開、調査研究、教育普及を通して、徳島市の成り立ちや文化に関する知識と理解を深め、新たな市民文化の創造と郷土への愛着を高めることをめざしています。

常設展示は「藩政の変遷」・「大名のくらしと文化」・「城の構え」・「城下町のくらし」・「阿波水軍の活躍」の五つのテーマで構成しており、常設展示室1～5において展示公開し、常設展示室2では、テーマ展として年4回展示替えをしています。

また、近世の特定のテーマに即した企画展を年5回、通常の特別展を年1回、及び本年に限り巡回特別展を1回開催します。その他に、徳島で行われてきた伝統行事を新たなイベントとして再現したり、博物館講座を開催しています。

上板町立歴史民俗資料館

当館では、上板町の農具、生活用具を中心に展示を行っています。

なかでも、近世から明治にかけて当町とその周辺で盛んであった阿波和三盆の製造用具〔写真①〕(砂糖車、荒釜、押槽、研槽、澄まし桶等)、阿波藍の製造用具(ハネ、クマデ、コマザラエ、臼、杵等)の展示、大正・昭和に雑誌「青鞥」等で活躍した当町出身の作家生田花世の自筆原稿等の展示〔写真②〕が当館の特徴です。



写真① 阿波和三盆に関する展示

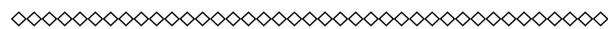


写真② 生田花世に関する展示

また、他に農具(唐箕、足踏み脱穀機、製縄機等)、生活用具(遊山箱、洗濯板、蓄音機等)も展示していることから、小学校の社会科見学にご利用されたり、当館研修室で毎年6月から3月にかけて、公民館講座「陶芸入門」を実施し、地域や学校の教育活動とも連携しています。

開館日時は、火曜日から金曜日、午前9時から午後4時30分です。お問い合わせは当館(電話088-694-5688)、もしくは、上板町教育委員会(電話088-694-6814)にお電話してください。

ご来館お待ちしております。

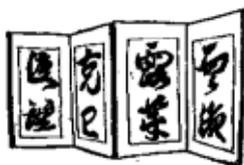


菘翁美術館

○毎月第二土曜日のみ開館

幕末の三筆の一人、貫名菘翁(ぬきなすうおう)の書画作品を展示しています。

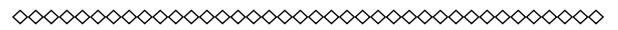
菘翁は、安永7年(1778)徳島城下弓町に生まれ大阪・京都を舞台に活躍しました。全国的に愛好家が多く、遠方からも多数ご来館いただいています。



徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

阿波十郎兵衛屋敷は、1698年に罪状も明らかにされないまま処刑された庄屋十郎兵衛の屋敷跡で、その70年後に近松半二等により作られた、徳島のお家騒動の浄瑠璃芝居「傾城阿波の鳴門」ゆかりの場所です。昭和54年から屋敷内に舞台を建て、人形浄瑠璃芝居の定期公演をしております。平成18年には徳島県産の杉で、上演舞台・観覧席を建て替えました。阿波人形浄瑠璃(国指定重要無形民俗文化財)を毎日上演しており、上演時間外には映像でご覧いただけます。

又、展示室には阿波人形浄瑠璃の特色や木偶人形の展示等、徳島の郷土芸能の情報発信の場所となっております。



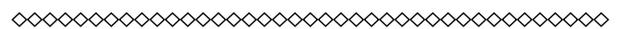
阿波木偶人形会館

阿波木偶人形会館は、人形師「人形健」が手がけた木偶人形をおよそ100体展示しています。館内では、木偶人形の製作過程などの詳しい説明や人形芝居のテレビ(ビデオ)放映もしています。世界一ジャンボかしらや最新作では、酒呑童子など(特大木偶)の必見あります。

人形製作だけでなく普及にも携わり、博報堂文化賞や読売教育賞など受賞し、伝統芸術の継承をいのちとして、二代目ともども日夜研鑽努力を続けております。

館内展示物は、順次入れ替えも行い、徳島の誇るすばらしい伝統技術の継承のためにもぜひ一度お立ち寄りをお待ちしております。

徳島県立総合大学「まなび一あ徳島」の連携講座では、美術・工芸部門による講座(木偶人形の鑑賞)もあります。



勝浦町郷土資料展示室

平安時代に作られた造り馬(つくりうま)、鎌倉時代といわれる古面のほか、幻のへじといわれるツチノコや、イグアノドンの歯の化石(レプリカ)などの勝浦町で産出された化石も展示しています。



三木文庫

三木家当主第13世與吉郎が、昭和55年4月に社団法人とした。

阿波藍関係の資料においては「日本一」といっても過言ではありません。

展示品の公開や講座等については行っておりません。

情報コーナー

JパワーよんでんWa ンダーランド

当園は、電源開発(株)と四国電力(株)の橘湾石炭火力発電所の対岸に位置する体験型施設です。

屋内の展示コーナーでは、さまざまな「ふしぎ」に好奇心がふくらみ、発見する喜びを味わえます。

また、屋外にはWa ンダーランドをはじめ、趣向をこらした遊具や四季を彩る花畑などが広がり、元気に体を動かしたりゆったりとリフレッシュしたりできます。

○8月～11月の催し物案内

・7月20日～8月31日:

夏休み 橘湾石炭火力発電所個人見学会

・毎月第3日曜日(8/17, 9/21, 10/19, 11/16):

サンデーイベント「カレンダー貯金箱」他

・8月17日:「心で聴く」朗読会

・8月24日:ふしぎ発見工作教室「電流イライラ迷路」

・10月26日(計画中):Wa ンダーふれあい祭り

・11月8日～12月14日:

メモリアルクリスマスツリーを作ろう

・11月16日～12月7日:

Wa ンダーサンタへメッセージ

鳴門市ドイツ館



◆見どころ・・・第一次大戦時のドイツ兵俘虜たちの暮らしや地元民との交流を紹介。牧畜・製菓・建築・音楽など、俘虜達の進んだ技術や当時の文化の様子がうかがえます。また、ベートーヴェン交響曲『第九』を日本で初めて演奏したことで有名で、館内では実物大の人形の演奏を楽しめます。

◆企画展示・・・10月1日(水)～10月20日(月)
2階特別企画展示室 『ドイツ兵俘虜の遠足』

◆随筆・・・『どこにしようそこがドイツだ』
収容所内新聞

『ディ・バラッケ』(日本語版) 1～4巻

『 " " 』(ドイツ語版) 2巻のみ

『 " " 』(ドイツ語版・CD) 1～3巻

阿南市立阿波公方・民俗資料館

○8月2日(土)～8月24日(日)

阿波公方顕彰書道展

阿波公方九代 足利義根作の漢詩集「栖竜閣詩集」からの作品を中心に阿南市内在住の書家75名の作品を展示しています。

○9月25日(木)～10月30日(木)

企画展「那賀川平野の貝化石」徳島県立博物館と共催

海陽町立博物館

<企画展のお知らせ>

第24回企画展「三木恒山 水墨画展」

会期:11月1日(土)～11月30日(日)

海部郡牟岐町出身の江戸時代の画人、三木恒山(みきこうざん)の水墨画をお楽しみください。

※ 期間中の11月1日(土)～3日(月)は、「関西文化の日」の行事に充て、入館料は無料の予定です。

<編集後記>

これまでの内容を一新し、加盟館・園相互の連携を深めるために、協議会ニュースを情報紙的性格のものに編集することになりました。ご案内が不十分だったせいか、問い合わせの電話をいくつもいただきました。事務局としましても、皆様からのご提言をいただきながら、より良い紙面づくりを工夫していきたいと考えています。今後とも、ご意見や各種情報等お寄せいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、次号では11月に計画しています先進地博物館調査のご報告を掲載する予定です。その他にもたくさんの原稿をお待ちしています。

徳島県博物館協議会ニュースNo.28

平成20年8月1日 発行

編集・発行者

〒770-8070

徳島市八万町向寺山

徳島県立博物館内

徳島県博物館協議会事務局

TEL. 088-668-3636

FAX. 088-668-7197